

ファミリーデー ～本ものとの出会い～

安田めぐみ

3月11日の東日本大震災、原発事故は今まで当たり前にご過ごしてきたことを考え直す機会となりました。自然界と共存しながら生きてきたのか。生活の便利さのみを追求してきたのではないのか。そして、遠く離れている事で日常の生活の忙しさに紛れてしまい忘れがちになり、これまでのツケを福島の方々にだけ負わすことになっているのではないかなど。今こそ、未来を担う子どもたちへ残すものことに、私達大人が真摯に向き合い、行動を起こしていく時であると思います。

10月に入り、ほし組の子どもたちが朝と帰りに門前に立ち、自分達の書いた絵の載ったバンダナを被災に遭った東北の幼稚園のお友達に贈り励ましたい、との思いで、その資金を得るために募金の行動を起こしました。保護者の皆様をはじめ道行く方も募金をして下さいました。このほし組の子ども達の姿に力を与えられました。と同時に「共によるこび、共に悲しみ、共に泣き、共に怒る」実践であると確信しました。

錦江幼稚園は本ものとの出会いを大切にしています。感性が育つこの幼児期こそ本ものとの出会いが心をふるわせ心を豊かにし、しっかりと大地に根をはり、少々の困難にも、しなやかに対応する成長に繋がっていくと信じています。本ものとの出会いは毎日の子ども同士の関わりから出来るたくさんの経験から「うれしい、たのしい、くやしい、かなしい」思いを肌身で育んでいきます。言葉で「仲良くしましょう」を百回言うよりも仲良くする仕方を習得できます。

この考え方の線上に「ファミリーデー」があります。走ることが得意な子、苦手な子。引っ張るのが得意な子、苦手な子。投げるのが得意な子、苦手な子。また、緊張のあまりその場から動けなくなったり、大声を上げてしまう子もいます。皆受けとめ方、表現の仕方は違いますが本ものを体験し、心をふるわせているのです。そして、お互いに違いを認め合いながら、ひとりひとりが自分の持っているものを精一杯表現しています。

ファミリーデーは練習を重ねてその成果を見ていただく日ではないことを覚えて、ひとりひとりの子ども達が精一杯行なっている姿を温かく見守っていただき、集うすべての方々と共に楽しく過ごせる一日となることを願っています。